

宮城県林業普及活動情報

2023. 10月号 No. 185

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～12

- 「野生きのこ等」への注意喚起(巡回指導) (大河原地方振興事務所)
- 「こけし用ミズキ材の供給」への支援 (大河原地方振興事務所)
- ナラ枯れ被害木の有効活用 (大河原地方振興事務所)
- 「大和町露地栽培原木しいたけ生産推進協議」会への出席 (仙台地方振興事務所)
- 宮城県仙台第三高等学校「時習の森」での活動支援 (仙台地方振興事務所)
- 「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」の活動団体の支援
- 「大和町露地栽培原木しいたけ生産推進協議」会への出席 (仙台地方振興事務所)
- 森林計画制度に係る各市町村との打合せの実施 (仙台地方振興事務所)
- 宮城北部流域森林・林業活性化センター大崎支部の活動への支援 (北部地方振興事務所)
- 野生きのこ(なめこ、ならたけ、むきたけ)の出荷制限一部解除に向けた説明会 (北部地方振興事務所)
- 飛沫パネル再利用に関する打合せ (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「苔栽培技術講習会」の開催 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「苔テラリウム商品化講習会Ⅰ+トークショー」の開催 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- みんなの森林づくりプロジェクト活動に係る安全講習の実施 (東部地方振興事務所)
- 再造林促進に係る協定に基づく植樹活動の準備 (東部地方振興事務所)
- 「森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト」植樹への支援 (東部地方振興事務所)
- 森林経営管理制度の推進支援 (東部地方振興事務所)
- 登米市産業フェスティバルにおける原木しいたけ試食・販売支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 「全国育樹祭実行事務局」看板作成に関する支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- あいコープみやぎ生産者交流イベントにおける原木しいたけ等の試食・販売支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 気仙沼市産メンマがついにラーメンデビューしました (気仙沼地方振興事務所)
- 松岩小学校の植林体験を支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 気仙沼市産業まつりで林業PRブース出展しました (気仙沼地方振興事務所)
- 林業普及指導員専門別研修(チェーンソー①)を開催 (林業技術総合センター)

「野生きのこ等」への注意喚起(巡回指導)

大河原地方振興事務所

【11日(水), 31日(火)】

秋のきのこシーズンに伴い、管内の特用林産物を取り扱う直売所を対象に、放射性物質による食の安全・安心を確保するため巡回指導を実施しました。

今回は、昨年度の情報収集等により野生きのこの取り扱いが想定される管内の直売所を主な対象に、放射性物質濃度の基準値を超えた商品を流通させないように、また、毒キノコ等の取り扱いに注意するよう巡回指導を実施し注意喚起を行いました。販売者には、改めて、食の安全・安心を確保するため、検査の必要性を再認識していただきました。

引き続き、巡回指導を行いながら、安全安心な食品の流通について、注意喚起を行っていきたいと思います。



【巡回の様子】

「こけし用ミズキ材の供給」への支援

大河原地方振興事務所

【20日(金)・24日(火)】

ミズキ植栽地において、国と部分林契約を締結した白石市部分林組合、仙台森林管理署、白石市の担当者と合同で、生育状況調査を実施しました。その結果、ミズキ植栽地は伐期には達しているものの、ミズキの成立本数は一割にも満たないとともに搬出道路も近くにない状況でした。収支が合わないことから今後の管理を検討することとなりました。

また、弥治郎こけしと遠刈田こけし関係者からの聞き取りを実施したところ、両者ともに東日本大震災以降ミズキ原木の確保が難しくなったとのことでした。今後は現状を踏まえ、伐採業者等への協力依頼や材を受け入れる体制構築に向けて取り組むこととなりました。



【20日の現地調査】

ナラ枯れ被害木の有効活用

大河原地方振興事務所

【23日(月)】

利用頻度が低いスギの大径材やナラ枯れ等で伐採された広葉樹を有効活用するための取組「広葉樹を利用した地域材フローリング等内装材の商品化の検討」にあたり、柴田農林高等学校青根演習林からナラ枯れ被害木が提供されることとなったため、関係者と現地打合せを行いました。ナラ枯れ被害木の処理に苦慮していた柴田農林高等学校側の負担軽減を図るとともに、公共建築物の内装等に使用される商品化に向けた検討の推進に関係機関と連携して支援を行っていきます。



【現地打合せの様子】

「大和町露地栽培原木しいたけ生産推進協議」会への出席

仙台地方振興事務所

【3日(火)】

大和町を事務局として、町内の露地栽培原木しいたけ生産者が中心となり開催される協議会にオブザーバーとして出席し、町内の出荷制限解除の状況や、解除手続きについて説明を行いました。

原木しいたけPRイベントについては、昨年度同様、たいわ産業まつりにて植菌体験を行うことが決定され、その内容についての打合せも行われました。

今後も、町と連携しながら、原木しいたけ生産者の活動支援を行います。



【生産者等による協議会の様子】

宮城県仙台第三高等学校「時習の森」での活動支援

仙台地方振興事務所

【3日(火), 22日(日)】

宮城県仙台第三高等学校では、学校林「時習の森」で、さまざまな森林活動を行っています。

昨年度、高校生は県林業技術総合センター指導のもと、葉を使った樹木の同定について学びました。今年度は、活動の輪を広げるため「時習の森」で各種交流活動を行うこととなり、林業普及指導員も活動支援をさせていただきました。

3日は、海外姉妹校の高校生と一緒に、「時



【高校生が葉を使い樹木同定】

習の森」のフィールドワークを行ったほか、お互い英語を使って樹木の同定を行いました。

22日は、近隣の小学生と一緒に、「時習の森」のフィールドワークを行ったほか、高校生が小学生に樹木の同定の仕方を教えることにも挑戦しました。当日は林業普及指導員が「森林のはたらき」について講話を行い、小学生、高校生は熱心に耳を傾けてくれました。

これからも、「時習の森」を舞台に、森林について学び学んだことを広める高等学校の活動を支援していきたいと思います。



【林業普及指導員による講話「森林のはたらき」】

「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」の活動団体の支援

仙台地方振興事務所

【4日(水), 26日(木)】

仙台管内には「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」により森林整備等の活動を実施している団体が12団体あり、事業等の適切な実施を図るため、各団体に対し現地での活動支援を実施しています。

今回は仙台市内の団体について、現地での活動予定箇所や、活動状況を確認し、事業実施の留意事項について説明、指導を行いました。

今後も活動団体への現地指導を行い、各団体の森林づくり活動の円滑な実施を支援して参ります。



【山林内の歩道整備活動】

森林計画制度に係る各市町村との打合せの実施

仙台地方振興事務所

【12日(木), 19日(木)】

10月から11月にかけて管内の各市町村をまわり、「伐採及び伐採届出制度」の適切な運用が図られるよう打合せを行っています。

各市町村共通の傾向として、伐採後の更新方法として再生林ではなく天然更新を計画されている場合が大部分でしたので、打合せ結果を踏まえて森林所有者の方々に補助制度等を活用して再生林を検討していただこう、改めて周知を図ってまいります。



【市町村担当者との打合せ】

宮城北部流域森林・林業活性化センター大崎支部の活動への支援

北部地方振興事務所

【11日(水)】

宮城北部流域森林・林業活性化センター大崎支部の事務局である大崎森林組合と今後の活動計画について、打合せを行いました。

今後予定している「広葉樹に関する講演会の開催」や「ドローン研修会」、「大径材等の有効活用に向けた視察研修会」などについて、具体的取組の進め方等を再確認するとともに実施時期や内容等の調整を行いました。

今後も活性化センター大崎支部の活動が円滑に進むよう、引き続き取組を支援してまいります。



【打合せの様子】

野生きのこ（なめこ、ならたけ、むきたけ）の出荷制限一部解除に向けた説明会

北部地方振興事務所

【16日(月)】

平成24年10月18日から続いていた大崎市産の野生きのこの出荷制限が、令和5年10月10日付けで一部解除指示が出されたことを受け、検査計画と出荷管理体制に関する説明会を大崎市と合同で開催しました。

当日は、採取者や直売所関係者13名出席のもと、出荷再開に必要なスキームを説明するとともに、採取・出荷者認証登録の受付をしました。

今後は、野生きのこの発生状況等を確認し、採取者及び直売所の協力を得ながら、安全安心な野生きのこの出荷に向けた支援を継続してまいります。



【説明会の様子】



【登録申請受付の状況】

飛沫パネル再利用に関する打合せ

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【19日(木)】

新型コロナウイルス感染拡大予防のため設置していた飛沫防止パネルについて、廃棄処分ではなく、木枠部分を木製品として再利用出来ないか、木材加工業者と製品化について打合せを行いました。

飛沫パネルの木製木枠部分の再利用について、当事務所から製品化のアイデアや価格設定等について、説明し、後日、木材加工業者の方で試作品を製作し、再度打合せを行うこととしました。

なお、製作した木製品は、当事務所で買取し、県主催等でのイベントなどでの配布を想定しています。



【打合せの様子】

「苔栽培技術講習会」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【27日(金)】

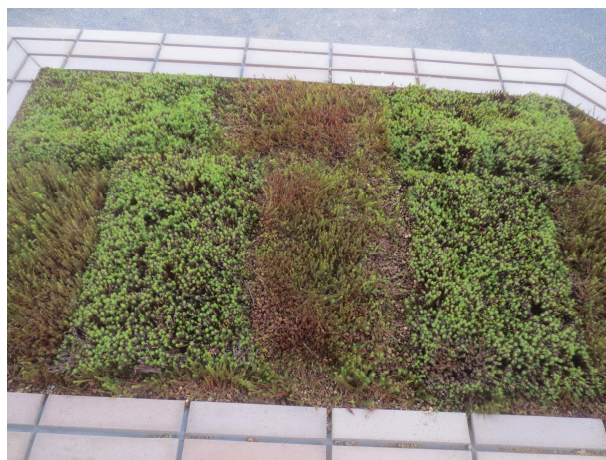
苔の地場産品化を推進するため、技術検討会を通して、苔生産者と造園業者との交流を図り、技術向上と販路拡大を目指すことを目的として、講師に日本苔技術協会代表の北川義一氏を招き、講習会を開催しました。

当日は、栗駒総合支所玄関前に苔見本園を設置する実技を通じて、実際に苔を設置する手法の研修を行い、また、講義では、講師からウマシゴケの特徴や生育方法など説明がありました。

参加者からは、熱心な質疑も飛び交い、苔の専門家を招いての講習会は苔栽培者と造園業者との交流も兼ね、大変勉強となるよい機会を提供することが出来ました。



【栗駒総合支所玄関前を会場に開催】



【完成した苔見本園】

「苔テラリウム商品化講習会Ⅰ＋トークショー」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【27日(金)】

産地化を目指している「くりはらの苔」によるグレードの高いテラリウムの商品化を図るため、栗駒山麓ジオパークビジターセンターにおいて、「苔テラリウム商品化講習会Ⅰ＋トークショー」を開催しました。

第一部では、ユーチューブの「道草ちゃんねる」で苔テラリウム作製動画を多数配信されている石河氏を講師にお迎えし、苔テラリウム作製の実演を行いました。使用する苔の種類、特性等を丁寧に説明いただき、手元をスクリーンに映しながら、苔・シダ・流木等の配置バランス等の作製におけるコツを惜しみなく披露いただき、クオリティの高い作品が完成しました。

第二部では、石河氏に加え、テラリウムショップ店長の関氏、杜のココリウムコンテストを主催する鎌田氏をゲストに迎え、苔による地域活性化についてのトークショーを開催しました。この中で、苔テラリウムは海外での人気が高まっていてコメント数も海外の方が多く、育てる楽しみをテラリウム購入者に体感して貰うため商品は80%の完成度で発送していることなどが話されました。本題である地域活性化に向けては、苔に興味を示す人々の裾野を広げることが重要との意見が出されたことから、引き続き、苔に関する様々なイベントを仕掛けていくこととしています。



【手元をスクリーンに映しての商品化講習会】



【石河氏（写真中央）、関氏（写真右）、鎌田氏によるトークショー】

みんなの森林づくりプロジェクト活動に係る安全講習の実施

東部地方振興事務所

【2日(月)】

今年度から標記活動を開始した団体（構成員8人）を対象に、作業上の安全配慮の重要性について、講習を実施しました。

構成メンバーは現役の作業経験者のほか、作業未経験者が含まれる一方、当該活動は雇用形態ではない自主的な従事であり、万が一の労働災害の場合は保障が課題となります。このため、当方からは、重ねての安全配慮をお願いしました（念のため、団体ではボランティア保険に加入済）。また、竹林での災害発生事例研究及びリスクマネジメントの演習



【リスクマネジメントの様子】

のほか、現地でのリスクの洗い出しや、作業上の注意点を再確認して、防災意識を高めていただきました。

再造林促進に係る協定に基づく植樹活動の準備

東部地方振興事務所

【18日(水)】

管内の製材会社と森林組合、及び当所による「再造林促進に関する協定」(R2.6締結)に基づき、今年度も関係者のPRイベントを行うこととなったため、現地調整を担う森林組合と植樹候補地の状況を確認しました。

候補地：現状は伐採跡地(雄勝町水浜)において、想定される植栽区域、植栽本数、及び関係車両の駐車箇所などを確認しました。

今後、調査結果をもとに、苗木提供者である製材会社側との連絡調整を経て、具体的な日程や参加者の調整を図るなど、開催に向け準備を進める予定です。



【候補地の状況】

「森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト」植樹への支援

東部地方振興事務所

【25日(水)】

漁業関係者と林業関係者(参加者50人)の協働により、森と海が一体となって環境整備を進める標記イベントを支援しました。(主催：(公社)宮城県緑化推進委員会)

植栽箇所は津波跡地の原野状態であり、適した樹種としてクロマツ苗を、1人当たり10本ほど植えてもらいました。また、R7年度当県開催の全国育樹祭のPRも兼ね、隣接箇所でもクロマツ幼齢林の枝落としも体験いただきました。

参加した漁業者からは、「こうした連携活動により、地域の環境がよくなることを期待したい。」などの感想が寄せられました。



【植樹活動の状況】

森林経営管理制度の推進支援

東部地方振興事務所

【30日(水)】

各市町に継続的に支援を行っている森林経営管理制度の取組について、伴走型支援を要請されている女川町と集積計画取りまとめ作業の注意点などを打合せました。

今回は、R2年度に所有者意向調査を実施した地域の植生確認を経て、集積化の作業を支援したもので、集積計画案のサンプルを提示しました。その結果、町では今後、該当箇所の所有者の承諾等を得て、計画の公告を行うなど、取組を進めてもらうことになりました。



【伴走型支援打合せ：女川町】

登米市産業フェスティバルにおける原木しいたけ試食・販売支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【1日(日)】

発生しているしいたけ原木を展示しながら、試食と販売を行いました。試食は、炭火焼きで振る舞い、原木しいたけの香りや味が好評でした。販売では、原木しいたけ100袋が午前中に完売しました。多くの市民へ原木しいたけの美味しさを伝えるとともに、生産者のモチベーションにつながるよう成果を伝達することができました。



【大人気の原木しいたけ試食・販売】

「全国育樹祭実行事務局」看板作成に関する支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【6日(金)】

全国育樹祭推進室から県庁に掲げる「全国育樹祭実行事務局」の看板を登米市産FSC認証広葉樹材で作成したいとの依頼があったので、登米市森林管理協議会を参集し、協力の依頼と具体的な行程について検討しました。

広葉樹材の支給はCOC認証業者である登米町森林組合が中心となって行い、文字入れは、米川小学校緑の少年団の団員が行う予定です。今後は、米川小学校との調整を含め、年度内の看板作成を支援します。



【登米市森林管理協議会との検討】

あいコープみやぎ生産者交流イベント における原木しいたけ等の試食・販売 支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【21日(土)】

発生しているしいたけ原木の展示と併に原木しいたけ、原木なめこ、干しいたけの販売を行いました。試食は、原木しいたけをバター焼きで振る舞い、老若男女問わず、幅広い層にたいへん好評でした。原木しいたけの美味しさを改めて伝えるとともに、原木しいたけ生産者とあいコープみやぎ組合員の方々との交流の機会を支援することができました。



【賑わう交流イベントの様子】

気仙沼市産メンマがついにラーメンデ ビューしました

気仙沼地方振興事務所

【9日(月)】

塩竈市の和み処「男山」様において開催された限定イベントの特別メニューとして、気仙沼市産メンマを使用したラーメン「伊達の潮-極」が2日間計140食提供されました。

当日は、気仙沼のメンマ生産者とともに提供状況を確認するためイベントに参加しました。

今回のイベントは、「俺らの宮城飯」をコンセプトに、宮城県内をはじめ“奥州”の食材をPRすることを目的として開催されたもので、主催者であるラーメン「カラテキッド」様が県HPを通じて気仙沼市産メンマづくりの取組を知っていただいたことがきっかけで、今回の特別メニューでの使用が実現しました。

試食後に主催者と意見交換を行ったところ、普段調理している外国産のメンマよりも身がしっかりしており、質も良いとの高評価をいただき、生産者の励みになりました。なお、イベントは完全予約制で、あっという間に完売し大盛況でした。



【気仙沼市産メンマを使用したラーメン】



【限定メニュー(ラーメン+はらこ飯)】



松岩小学校の植林体験を支援

気仙沼地方振興事務所

【30日(月)】

気仙沼市立松岩小学校では、5年生(児童数51名)の総合学習において、「気仙沼の豊かな海と森林環境の関わり」をテーマに学んでおり、その一環として(一社)松岩愛林公益会等の協力を受け、同会の所有山林に有限会社早稲谷・菅原苗木店から提供された広葉樹(クヌギ・コナラ・エノキ)を植林しました。

当事務所では、森林が持つ機能と山と海とのつながりについて説明するとともに、苗木の植え方のデモンストレーションを交えて、植林作業の支援を行いました。

児童は植林前に下流の川を遡上する鮭の観察も行ったようで、今回の植林を通じて山と海のつながりを感じていたようです。

また、植樹指導を担当した森林組合職員によると、苗木がしっかり育つことを考えて、植える際は丁寧に作業をしており、今年度の植林は、トップクラスの出来映えだったそうです。

令和7年度に全国育樹祭が宮城県で開催されることから、今後も森林づくりなどに関する普及推進活動をより積極的に行っていきます。



【森林に関する説明状況】



【植林体験状況】

気仙沼市産業まつりで林業PRブース出展しました

気仙沼地方振興事務所

【22日(日)】

気仙沼市産業まつりが開催され、当所では「特用林産物の試食(しいたけの唐揚げ・きくらげの天ぷら・気仙沼市産メンマ)」・「なりきり林業キッズ体験」・「高性能林業機械ミニカー展示」・「林業PR動画の上映」等、多岐にわたったPRブースを設けました。

当日は、トイチェーンソーや高性能林業機械ミニカーなどのおもちゃは子供達に大人気で、多くの子供達に、なりきり林業体験をしてもらいました。これからも、様々なイベントに参加して、林業のPRや試食品の提供をしていきますので見かけましたら、是非、お立ち寄りください。



【なりきり林業キッズ体験状況】

林業普及指導員専門別研修（チェーンソー①）を開催

林業技術総合センター

【24日(火)】

県林務職員が、現場においてチェーンソー作業を実施する際に、労働基準法で事業者に求められる義務と同等の責務を確保するため、4名の受講者を得て、労働基準法に規定する標記特別教育の6時間分を実施しました。

カリキュラムは必要教程のうち、「関係法令」（1時間）、「振動障害及びその予防に関する知識」（2時間）、「チェーンソーに関する知識」（2時間）「伐木作業に関する知識」（1時間）を実施しました。講義内容は、テキスト「チェーンソー作業の安全ナビ」のカリキュラムに対応した章に沿って説明しました。

また、地方公務員災害補償法・ISO 5349-1・チェーンソー取扱説明書・スプリケットとガイドバーとソーチェンの規格適合について補完しました。加えて「チェーンソーに関する知識」では、実際にチェーンソーを分解し、知識を深めました。



【チェーンソーの分解状況】